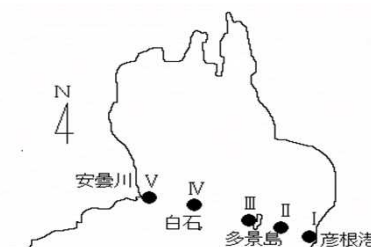


# 琵琶湖定点定期観測結果速報(令和4年7月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和4年7月11日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点  
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町  
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

## 調査結果

平均値 … 5地点の平均値

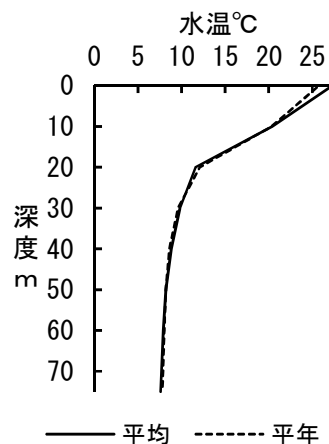
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2012年～2021年(平成24年～令和3年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 7月平均値 6.7m 平年値 5.1m

## 2. 湖水温 (°C)

深度(m)	7月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	27.0	25.5	+1.5
10	20.4	20.3	+0.1
20	11.6	12.1	-0.5
30	9.8	9.6	+0.2
40	8.8	8.6	+0.2
50	8.2	8.2	+0.0
60	7.9	8.0	-0.1
75	7.6	7.8	-0.2



## 3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
6月下旬	24.9	22.3	+2.6
7月上旬	27.1	23.9	+3.2
7月中旬	26.9	25.2	+1.7

#### 4. プランクトン沈殿量 (ml/m<sup>3</sup>)

水層 (m)	7月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	10.1	13.8	-3.7
10~20	16.4	4.7	+11.7
20~40	2.8	1.7	+1.1
40~75	0.7	0.7	+0.0

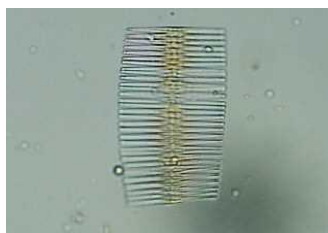
(プランクトンネットNXX14使用)

#### 5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、前月よりも全体的に減少しており、全ての地点で*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)が細胞数で比較的多く認められたほか、*Micrasterias hardyi*(ミクラステリアス:緑藻)が量的に多く認められた。

動物プランクトンについては、全ての地点で*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)とCyclopidae(ケンミジンコ科:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期およびコペポデイド期幼生が個体数密度で多く確認された。



*Fragilaria crotonensis*



*Micrasterias hardyi*



ノープリウス期幼生



コペポデイド期幼生

#### 6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	7月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	8.5	107.9	9.3	115.6	-0.8	(-7.7)
10	10.0	113.4	9.1	104.9	0.9	(+8.5)
20	8.8	83.4	8.7	83.7	0.1	(-0.3)
30	9.4	85.8	9.3	84.1	0.1	(+1.7)
75	6.6	57.4	6.8	59.2	-0.2	(-1.8)